

「けやき俳句の会」会報(第二百六回)

令和二年十一月

第二百六回句会記録

★日時 十一月四日

★場所 紙上句会

★参加者十八名 (総数五十四句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数)

- ⑦ 宿題はまだある齡残る虫
- ⑤ 雁渡し山河を包む空の青
- ② 色変えぬ松美し般若の面また

真樹先生選句 (◎は特選)

- ◎⑧ 一両車の旅人ひとり秋深む 隼人
- ◎⑤ 大利根の上流目指す雁の棹 真弓
- ◎② 七五三祝児は草臥れて欠伸して 要
- ③ 天高しダイダラボッチひと休み 真弓
- ② 荒れ寺に芭蕉の句碑や秋寂し 樹音
- ② 無人の家壁を飾りし蔦紅葉 樹音
- ② 蕎麦の花山の斜面を粧いて 誠
- ② 金木犀散りしあと追う子犬かな 一華
- ② 秋曇つかの間眩し夕日落つ 東洋
- ① 秋茄子を山と貰いてお裾分け 誠
- ① 道祖神に野菊一輪旅の途次 而今
- ① 鴉叫喚日暮れの街の騒音に 香魚
- ① 風無くてつゆ草露を零しけり 要
- ① 紅葉かつ散る八甲田山歩く 盈光

★会員互選句

- ④ 秋草や風に乗る種落ちる種 夢城
- ③ 烏瓜の喜色満面藪の中 真弓
- ③ 七輪の上で見栄張る秋刀魚かな 秋雲
- ③ 竜胆の青は幼き日の記憶 香魚
- ③ 暮早し広場の時計また遅れ 藍愛

- ② 桂川茶店の座布団もみじ散る 而今
- ② 往く秋や山は七色野は黄金 蕉哉
- ② ぬくめ酒手酌でぼつり独り言 隼人
- ② 南瓜切る力不足を技に変え 一華
- ② 精米の熱を孕みて今年米 清明
- ① はしゃぐ子ら通学小路こぼれ萩 紀泉
- ① たまに来る孫の足音居待月 紀泉
- ① 母回忌石塔の戦痕秋深し 紀泉
- ① 利根川の葦のざはざは秋の声 而今
- ① 秋夕焼映えて照山浄土かな 香魚
- ① 柿落葉見上げる枝に実が一つ 秋雲
- ① 音無くも紅葉且つ散る主張あり 一華
- ① 炉端焼き銀杏三粒弾け飛び 蕉哉
- ① ぼんぼりに浮かぶ灯籠薄紅葉 樹音
- ① 平成の森紅葉かつ散りて朱をうぼう 東洋
- ① 秋の朝有終飾り職を止む 盈光

【次回開催】

十二月二日(水)

自由句三句